

4. 教育目標と特別活動の関連づけについて

(1) 問題点

「特別活動の指導で、その内容に学校の教育目標を関連づけて考えていますか」という設問に対して「特別活動の全内容で考える」と回答した教師は約46% (N= 140) で最も多く、残りの約50%の教師は「学級指導、生徒活動、学校行事及び各々二つの内容で考える」と回答している。これを「各教科の授業と教育目標との関連づけて考えている」22% (N= 139) と比較すると、かなり高い率を示している。このことは、特別活動のねらいそのものが各教科の授業のねらいよりも、教育目標との関連が密接であると考えている教師が多いことを示している。また、特別活動は、実際の活動の場合に教育目標と関連づけて指導しやすいと考えている教師が多いためではないかと思われる。しかし、約50%程度の教師が教育目標との関連を特別活動の全内容では考えていないというのは問題であろう。さらに、わずか2%ではあるが「全く考えていない」という回答があり、その理由として「特別活動の内容には教育目標の内容が含まれているから」としている。これは、教育目標を無視して特別活動を行っても教育目標は達成されるという考え方と同じことであり、極めて問題であろう。

(2) 基本的な考え方

特別活動は望ましい集団活動を通して個性を伸長すると共に、自主的実践的な態度を身につけながら調和のとれた人格を形成するうえで重要な意味をもつ教育活動である。そして、特別活動の内容には、教育目標を達成するための活動要素が直接的に多く含まれていると考えられるので、指導計画を作成し実践するに当たっては、教育目標との関連を綿密に考えて計画し実践にうつすことが肝要であろう。従って、特別活動に教育目標を具体化する場合には、次のようなことが考えられるであろう。

- ① 教育目標を年度の重点目標から努力事項、実践事項へ順次具体化する。
- ② 実践事項まで具体化された教育目標を特別活動の重点目標へ具体化する。
- ③ 特別活動の重点目標まで具体化された教育目標を学級指導の四つの内容に具体化する。
- ④ 教育目標との関連を指導過程に位置づける。

(3) 学級指導に教育目標を関連づけた例

調査の結果、学級指導の中で、教育目標の具現化を図ろうとしている教師が大多数なので、これをその例としてとりあげた。

① 教育目標の重点目標から努力事項、実践事項への具体化

教育目標	A 進んで学習し創造性に富む生徒	B 奉仕と協力ができる心豊かな生徒	C 体力と気力にみち実践力のある生徒
重点目標	① ₁ 学習に目的や課題意識を持って自学できる。 ① ₂ 工夫して何ごとにも取り組むことができる。	② 何ごとにも積極的に行動し、奉仕の精神の高揚を図る。	③ ₁ たくましい体力・気力を育てる。 ③ ₂ 困難に負けない、強い意志を育てる。
努力事項	a 無理を作らず計画的な学習を進める。	b 勤労をいとわず、仕事などに取り組む。	c 何事にも、前向きな姿勢で取り組む。
実践事項	① ₁ 学習計画(生活)表を毎日提出する。(反省し、指導をもとに工夫へ) ① ₂ 学習の能率をあげる工夫をした計画・方法を週2回提出し改善する。	② ₁ 自分の係の仕事は協力し合って毎日必ずなすとげる。 ② ₂ いやがらずに仕事は心よく引き上げる。 ② ₃ 勤労生産的な活動に積極的に取り組む。	③ ₁ 間違いは素直に認める。 ③ ₂ 公共物を大切にし、美化に努める。 ③ ₃ 学習も運動も、しりごみしないで「いどむ」気持ちもち実行する。